



深川東京モダン館だより

Fukagawa Tokyo Modankan News



共催

モダン講談会

後援：一般社団法人日本講談普及協会

日本講談協会

10月17日(土) 14:30～(開場 14:00)

躍動する講談 伝承していく講談とは

出演 神田 紫天、神田 桜子、田辺 銀冶、神田 陽子

予約・当日 3,000円 定員：50名 全席自由席 ※9月25日(金) 10時から受付



企画展

旧東京市深川食堂が歩んだ昭和

10月31日(土)～11月15日(日) ※11月2日(月)・9日(月)は休館日

昭和7年(1932)に建築された旧東京市深川食堂の歩んだ道のりを江東区や社会事業の歴史なども踏まえつつ紹介する

入場無料

10月のカレンダー

開館時間 10:00-18:00

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5 休館日	6 おきがる講座	7	8	9	10	11
12	13 休館日	14 	15 キッチン松ぼっくり営業日	16 モダン館円楽一門会	17 講談会	18
19 休館日	20	21	22	23	24 圓橘の会	25
26 休館日	27 噺+話	28	29	30	31 	

企画展「旧東京市深川食堂が歩んだ昭和」(～11/15)

懐かしい給食の味！キッチン松ぼっくり

10月15日(木) 11:45-14:00

さつま芋ご飯

いかのケチャップあえ

はるさめサラダ 切り干し大根 ゼリー

850 円

※受付は当日の10:00から(開館は10:00)

※完売次第、閉店いたします ※ラストオーダーは13:30です

※ご予約はできません ※メニューを一部変更する場合があります

揚げパンは 1個50円



写真はイメージです

共催

モダン館円楽一門会



10月16日(金) 14:00~16:00 (開場13:30)

予約・当日 2,000円 定員 50名

楽麻呂 鳳笑 ぽん太 愛二郎

演目は当日のお楽しみ

※9月25日(金) 10時から受付

+ 「深川と落語にちなんだ話」 龍澤潤

共催

圓橘の会

10月24日(土) 15:00~

(開場14:30)

三遊亭 圓橘・好青年

「さんま火事」

圓朝作「孝女お里の伝」

予約・当日 3,000円 定員 50名 ※10月6日(火) 10時から受付

共催

噺+話

10月27日(火) 14:00~ (開場13:30)

ぶすけうま
松柳亭鶴枝「武助馬」

+ 龍澤潤「演題にちなんだ話」

予約・当日 1,500円 定員 20名 ※10月6日(火) 10時から受付

主催

おきがる講座

江東区の歴史を学ぶ講座です

10月6日(火) 14:00~15:30

シリーズそのとき栄一は⑤官有物の払い下げと栄一の関わり Ⅱ

※9月25日(金) 10時から受付

受講料：500円 定員：50名(要予約) 講師：龍澤潤(深川東京モダン館)



深川の粋が薫る「日吉屋」 一本うどんは、乙な味



清澄白河の資料館通りにある「日吉屋」は、大正6年創業のお蕎麦屋さん。天せいろに深川井、深川蕎麦など、おいしいメニューは数々あれど、やはり注目は「一本うどん」。そう、池波正太郎著「鬼平犯科帳」に登場する、鬼平の大好物。「五寸四方の入れ物へ、親指ほどの太さの一本うどんが白蛇のようにとぐろを巻いて盛られたものを、箸でちぎりながら食べる」というアレである。

「鬼平」の中で、この一本うどんを出しているのは、「深川・蛤町にある海福寺門前の豊島屋」ということになっている。しかし、実際に江戸の深川で一本うどんを名物としたのは、浄心寺門前にあった「やほき」。昭和40年ごろまで存在しており、その「やほき」の一本うどんを池波氏も食し、「鬼平犯科帳」に登場させたという。

池波氏は、かたわらに「切絵図」や「江戸名所図会」、「江戸買物独案内」を置いて「鬼平」などを記したというのは有名な話。その一方、事件などが起こる店に関しては、モデルはあっても架空の店としたという。「やほき」を「豊島屋」としたのは、そうしたわけだ。なにせ、「豊島屋」は、「男

色一本饅頭」で同心・木村忠吾（通称うさぎ）がさらわれた事件現場なのだから。

さて、「やほき」の一本うどん、その作り方は一子相伝。戦後まもなく、跡継ぎがいなかった「やほき」店主が、その製法を唯一伝えたのは、「日吉屋」店主（先代・現店主のお父様）だった。但し、商品として出してよいのは、「やほき」閉店後という条件で。ところが、先代が「やほき」閉店前に亡くなってしまったから、さあ、大変。先代の残した製法は闇の中。日の目を見たのは、20年くらい前、区役所からの「江戸時代の深川名物・一本うどんを復活できないか」の依頼がきっかけだった。現店主、亡父の⑧メモをなんとか見つけたものの、メモだけではなんともできず、熟慮研究を重ね、それはもう、大変な苦労の末、現在の「一本うどん」を復活させたという。まさに奇跡の「正統」な一皿といっても過言ではないだろう。

まあ、ともかく、この奇跡の一皿を堪能してみよう！ 鬼平ファン、深川ファンでなくても、乙な時間は、うけあいだ。



昭和23年に作られた店内は、床柱は百日紅、床の間の鴨居は松、床の間の下は樺、欄間の透かしは梅、長押は竹、天井の竿縁は桜など銘木でいっぱい。在りし日の木場の心意気が詰まっている



(文と写真 江東区文化観光ガイド 森本 美奈子)

深川東京モダン館では江東区文化観光ガイドによる館内のご案内（10時～16時）およびご希望によりモダン館周辺のまちあるきツアー（1時間程度、11時・14時出発）を行っています。※諸事情によりガイド不在の場合もあります。

貸会議室・多目的スペース

深川東京モダン館では2階の多目的スペースと会議室をお貸し出ししています。ミーティングやイベントを行うスペースなどにご利用ください。

◆会議室 (20㎡)

利用日時：開館日時 利用例：社内ミーティング、商談、お花・書道・語学の教室等

◆多目的スペース (80㎡)

利用日時：開館日時 利用例：展示、イベント、社内研修、演劇の公演、講演会、落語会等



多目的スペース



会議室

※料金・ご予約の詳細については、お電話またはメールにてお問い合わせ下さい。

※スクリーン、プロジェクター、マイクなど機器類もご利用いただけますので、ご相談ください。

ガイドブック・お土産品

深川東京モダン館1階では、まちあるきに役立つガイドブックや江東区の文化財ガイドなどを販売しています



新商品 コトミちゃん

ミニトートバッグ
ネイビー/グレー
各600円 (税込)

ポーチ
1,200円 (税込)

百圓珈琲

1F カウンターでは 100 円のコーヒー各種をご提供しております
日替わりホットコーヒーと
モダン館ブレンド (しっかり・すっきり)
をご用意

まちあるきの休憩時や
会社のお昼休み中に
どうぞ



当館は全て現金のみです

開館日および開館時間

10:00-18:00

休館日：月曜日

(月曜日が祝日の場合、翌火曜日が休館となります)



「深川東京モダン館だより」第158号(2026年9月10日)

発行 (一社)江東区観光協会 深川東京モダン館

〒135-0048 東京都江東区門前仲町1-19-15

TEL 03-5639-1776 FAX 03-5620-1632

Mail info@fukagawatokyo.com

ホームページ www.fukagawatokyo.com

